

小特集「日本のAI 元気な若手の動き」にあたって

山川 宏

(株式会社ドワンゴ ドワンゴ人工知能研究所)

生物史の通説では6600万年前に地球への小惑星衝突で恐竜が絶滅し、そこで生じた生態系の間隙を埋めるように哺乳類が大きく進出したとされています(2016年にこの説を覆す論文も現れてはいますが)。

この状況はもしかすると、現在の人工知能分野と似ているのかもしれませんが、なぜならば、この分野は20年近い冬の時代を過ごしてきたため、30歳代から40歳代の研究者は世界的に見ても少なくなっています。特に国内に目を向けると、今40歳代の方々が進路を決めようとしていた1990年代は就職氷河期であり、研究者を目指すことは難しい時代だったかと思われまます。さらに21世紀に入ると、多くの国内の研究機関は近未来の実用を重点化しました。このため当時はまだビジネス価値を見いださずらく冬の技術であった人工知能への投資は縮小しており、今、中堅を担うべき人工知能の研究者があまり育たなかったという実情もあります。

しかし今、冬を超えた持続的な人工知能ブームの最中、急速に本分野の技術と人材ニーズが高まってきています。そのため若手にとっては活躍の場が大きく広がり、若手主導によるコミュニティ活動も活発化しているように思えます。

こうした状況を踏まえれば、5年、10年先に活躍する人材が育つ長期的な発展を後押しすることが、当学会においても有意義と考えました。確かに昨今、機械学習が人工知能研究の主役となってきたため、データや計算リソースの量的な有意さが重視されてきています。とはいえ、やはり最も重要なリソースは、優れたアイデアを想像し、研究を企画し、運営していく能力のある優れた研究者の存在です。

そこで今回、日本のAIの力強い若手の活動状況について当学会誌を通じて広めていくべきとの考えから、この小特集を企画しました。今回は七つの若手の会から2ページほどの紹介記事をご寄稿いただき、それぞれに、設立趣旨、活動状況、今後の展望などをご紹介いただきました。

人工知能およびその周辺分野に興味をお持ちの、大学院生、大学生、高校生、中学生などの若手の皆様におかれましては、折に触れてこうした若手の会にアクセスしてみたいかがでしょうか。また、中堅以上の研究者や多くの社会人の皆様におかれましても、こうした活動を知り、理解し、参加や支援のきっかけとしていただければ幸いです。

- 人工知能研究会 /AIR
(<http://air-osaka.tumblr.com/>)
- NLP 若手の会
(<http://yans.anlp.jp/>)
- 全脳アーキテクチャ若手の会
(<http://wbawakate.jp/>)
- 生命情報科学若手の会
(<http://bioinfowakate.org/>)
- 脳科学若手の会
(<http://brainsci.jp/>)
- AI 若手の会
(<https://sites.google.com/view/ai-youth/>)
- 情報科学若手の会
(<http://wakate.org/>)